センターだより

平成２４年８月１５日
ＮＯ．４４
東濃西部少年センター
TEL　23－3455
FAX　26―8813

八月　夏雲生まれ
若人つどう　甲子園

立秋とはいえ　ますます厳しい残暑が続きます
熱闘する球児たち　励まし支える仲間たち　輝け若人！

センター職員

所　　長　石原　憲
指導主任　坂井正昭
事務担当　柴田弥生

今年度も５月末の委嘱式において、青少年の健全育成に関わる各種団体から推薦された総勢２００名の方々に、少年指導員の大役をお引き受けいただきました。

圏域内地区別指導員の新任と留任の構成は、以下のとおりです。

（　　）内は２３年度実数

	新　任	留　任	うち５年以上	計
多治見市	４９（　６３）	５３（３９）	２１〈38%〉	１０２（１０２）
瑞浪市	２７（　１６）	１５（２２）	６〈40%〉	４２（　３８）
土岐市	３７（　２６）	１９（３２）	４〈21%〉	５６（　５８）
計	１１３（１０５）	８７（９３）	３１（35%）	２００（１９８）

なお留任の中には、５年以上もお務めいただく方々が３１名、その殆んどが各地区で役員や班長として指導的立場でご活躍いただいています。

ところで、今年度は土岐・瑞浪地区において、指導員の６５％が新任となり、班構成も大幅に様変わりいたしました。留任の方には大変なご苦労をお掛けしますが、現場での指導経験をフルに発揮していただき、また指導部全体の支えとしてご尽力賜りますようお願い申し上げます。

また、指導員全員の皆様には、青少年の健全な育成と非行防止のために、この１年間子どもや若者への温かなご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

そして、関係機関・団体の皆様には、日頃からご協力・ご支援をいただいております。感謝申し上げるとともに、今後とも少年センターの業務の円滑な運営について、一層のご指導・ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

さて、この機会に当たり前のことですが、少年センターが特に力を注ぎ、一番大切にしなければならないことの一端を改めてお示しします。

指導活動で忘れてはならないこと

○　私たちが一番関心を持つべきは、特別ではないごく普通の子どもや若者たちです。彼等へのかかわり、声かけ・あいさつを通して人間関係・信頼関係を作ることが、ひいては問題行動への歯止め・抑止につながるのです。これは肝に銘じておかねばなりません。

法令や条例に違反する不良行為や非行に走る、一部若者に対する補導（取締り）や不審者・防犯等への対応は、警察の役割りです。私たちにできることは、警察をはじめとする関係機関への情報提供なのです。

○　青少年を非行から守るためには、彼等との関係成立が不可欠です。そのためには、さりげない自然体でのあいさつや声かけの繰り返しが大切です。（これは月１回の街頭指導だけでは無理なこと。近所のおじさん・おばさん感覚での日常的な実践こそが、いつか功を奏するのです。実はこれが指導員に一番期待されるところでもあるのです。）

いつでも言葉を交わせる間柄があればこそ、大人からの注意や厳しい指摘にも、彼等は応えてくれるはずですから。

○　青少年の健全な育成を支えるためには、彼等に対して積極的に接し関わることが求められています。そのためには、１年間を通して画一的な方法での活動に甘んじるのではなく、状況や環境の変化（学校や地域社会など、彼等を取り巻く生活サイクルの変化、さらには季節や気候の変動など）に対して、柔軟に対応していく工夫と改善が求められるところです。本当の目的（あいさつ・声かけ等を基盤にした関係づくり）達成のために、意味のある指導活動になっているのか、巡回のコースや拠点、時間帯についての見直しが常に求められています。

３地区合同研修会

若者を分かり　大人も分かってもらうために

私たちは、青少年の健全育成を目的とし、街頭での指導活動や拠点での啓発活動に日々取り組んでいます。こうした活動を通して常に大切にしていることは、彼等との信頼関係を築くことです。そのためには大人が若者の外見や所作・言葉づかいで値打ちを決めつけるのではなく、彼らと同じ目線に立って、ものの見方・関心事・価値観を理解しようとする姿勢です。

今回の研修会では、まさに２１世紀を共に支え・担うべき若者と大人が、健全な社会を築くために、何ができるかを模索するきっかけにしたいと願っています。

研修会は、**８月２６日（日）土岐セラトピア（２Ｆ多目的ホール）で、９時半から始めます。＜受付９時１０分から＞**

研修のメインは

◎ 約１３００名の生徒を擁する中京高等学校の林隼人校長先生の**講演**

「本校が目指す生徒像と抱える課題など」

◎ 土岐少年少女合唱団の発表**「世界の歌メドレー」**

これは幼児から大学生までの子ども・若者による無償の社会参加であり、社会貢献でもあります。

◎ 高校生と語り合う意見交流　**分散会**

「お互いの考え方・お互いの接し方・心へ迫り方」をテーマに

１グループ　指導員＋高校生　約１０名で編成　１０グループに分かれて話し合います。＜土岐商高９名　中京高２９名が参加します。＞

紹介します　土岐少年少女合唱団プロフィール

土岐少年少女合唱団は、１９７２年土岐市で結成され、今年４０年の節目を迎えました。演奏のジャンルは、世界の民謡から日本の童謡・唱歌、ポピュラーソングから合唱ミュージカルなど、幅広い演奏活動を続けています。また、委嘱作品つくりや「杉並児童合唱団」とのコラボなど、精力的に創造活動を展開しています。

現在幼児から大学生まで１５０名の団員が、「歌が大好き！　合唱団が大好き！」という共通の想いを分かち合い、日々演奏面でも精神面でも、より高いレベルを目指して挑戦を続けています。当日の発表では１５分の時間内で「ピクニック」・「地球を７回半回れ」など、世界の歌メドレーを演奏していただきます。

なお、**指揮は土本栄禎さん、伴奏は石中賀寿子さん**です。

県立東濃フロンティア高校は、平成１６年開校の３部制・単位制・定時制の普通科高校です。「学び直しができる　自分のペースで学べる」をモットーにした、県下でもきわめてユニークなシステムを特色とした学校です。

生徒には、生活スタイルで自由を認めているものの、自己責任を果たすことやマナーやモラルの尊重も、厳しく求めています。とはいえ、多感で不安定な若者集団です。さまざまな問題も山積していますが、教育の現場ではどこの学校でもかかえている当たり前のことでもあります。

日々多くの先生方と奮闘される砂場校長先生の、教育実践の一端をご紹介します。よりどころが見えず駅前に集まる一部高校生への接し方・理解の仕方について、貴重なヒントを見つけて頂きたいと思います。

失敗が失敗のもとになってしまう若者たち

東濃フロンティア高等学校
校　長　　砂場　道明

M君はたいへん困った生徒です。教師や大人に注意されると、屁理屈で相手（教師）の揚げ足をとったり、不快にさせたりする「反抗挑戦的な反応」をしてしまいます。

－「そうやって決めつける。上から目線、意味わからん」と、ふて腐れる。

（それは人の話を聞く態度ではない、聞く姿勢がないと話ができない）

－「はい、直した。早く話して」と、ヘラヘラ開き直る。

－「お前と話すことなんかねぇ。めっちゃ、うぜぇ」と、関係を断ってしまう。

こうした悪口雑言を大人が真に受けて、教え諭したり、反省を求めたりしようとすると、彼は興奮してますます事態をこじらせてしまうのです。小さな逸脱行動から、大きな逸脱行動に向かって、まるで自分から突き進んでしまうような失敗をしてきました。

このアマノジャクな反応は２～３歳児の特徴です。本当は思ってもいないかも知れないことでも、つい口走ってしまいます。ただし、２～３歳児のヤンチャなら大目に見てくれる人はいても、態度の悪い礼儀知らずの高校生に好意を示してくれる大人はいません。

M君は、自分の態度が目の前の大人（教師）との関係を悪化させていることを理解できていませんから、指導しようとする大人に反感と不信感を募らせます。私たちにとっては問題な困った生徒ですが、実は社会との関わり方がわからないで困っている若者なのです。

ですから、人から愛されたいという気持ちも強くあります。若い女性教諭に注意されたときのニヤニヤした不真面目な態度や、授業中の教師を困らせる常識外れの言動は、典型的な注目行動です。（みなさんも小学生の頃、ちょっと可愛い女の子にわざと意地悪をした経験はありませんか？）

Ｂさんには中１から喫煙の習慣がありました。吸わずにいるとイライラして人にあたってしまうので、母親が買い与えていたそうです。中学時代は身勝手で感情的、自分の都合でしか行動しないため、もっと悪い先輩に睨まれて学校不適応になり、登校しても授業に

出ることはなく、支援員の方に付きっきりで相手をしてもらっていました。

入学後に喫煙で指導したときには、煙草がダメな理由を「法律があるからやらぁ」と私がいない方向を見て答えたものの、自分の現実に気が付くことはなく「誰にも迷惑をかけていない」という本音がありありと表情に表れていました。Ｂさんに反省や自己の振り返りを求めても、功を奏することは期待できません。（１３歳から容認されてきたのです）

喫煙を始めた理由については聴きません。結果として言い訳をさせることになるからです。ダメなものはダメで終わりです。その代わり、「イライラしてもあたらないで我慢しているのはすごいね」と、今の姿を評価してやりました。入学当初から気ままな遅刻・早退があったものの、「またもやってしまった失敗」に焦点を合わせず、中学と違って曲がりなりに授業に出席しており、具体的に成果が見える学習活動には、前向きに参加している姿を認めてやりました。

反省文には次のようにありました。「ちゃんと考えて行動するというのは、私の中ですごく大きなことです」。Ｂさんが自分の視線をこれからの生活に向けることで、生活を良くしていこうとする気持ちが育っていくことを期待しています。

さて、「今どきの若者はけしからん」 と書かれた出土品がエジプトの遺跡から発掘されたという話がありました。古代ギリシャの哲学者ヘシオドスは「私が若い頃は慎み深く礼儀正しくと教えられたが、今どきの若者は利己的で忍耐力がない」と苦言を呈したそうです。最近は、日本人が劣化したとの（他人事のような）言説まであるようです。

４０年前、私は頼りない若者でした。大学受験にすべて失敗し、ひとり取り残されていると感じていましたし、自立に向けて一歩も足を踏み出していない自分を不安に思っていました。そのくせ大人の考え方や、世の中の在り方に違和感があり、自分が父親の年齢になるころには、自分の世代が社会を支えるのだから、世の中は今より良くなると思っていました。（世の中は変わったか？）

１９７０年代の後半、ディズニーランドもプレステも登場していません。都市部においてもエアコンの普及率は１０％以下。コンビニも携帯電話も考えられませんでした。

今どきの若者はユニクロでベーシックな服を揃え、マグドナルドでランチをとり、メールを使って仲間と気楽なおしゃべり。（便利さが人の心を貧しくしたとの尤もらしい声があります）。若者は内向きで社会に関心が薄いと言いますが、私たち大人はどんなふうに家族や仕事、社会に関わってきたかと自問してみます。

M君やＢさんをはじめ「失敗が失敗のもとになってきた若者たち」には、共通点があります。家庭も含めて居場所がなく、自分の存在が認められず、彼らには理解できない事情で否定され続けてきました。行動のパターンや感受性が歪んでも、ある意味で仕方がないことでした。

必要なのは「うまくできた、またやってみてもいいか」と思える「良い行動モデル」と、適切な自己肯定感を与えてくれる存在です。

この環境がないと、失敗の連鎖にある彼らは、往々にしてスリルと手応えのある「手っ取り早い（悪い）行動のモデル」に従ってしまいますが、もし「良い行動モデル」と出会えれば、彼らの人生が変わる可能性があります。

これは 今年度７月までの指導活動・相談活動 の実態です

(1) 行為別の指導状況

注) 23年度は年間の合計数です。(単位:人)

男女別	年度別	飲酒	喫煙	薬物乱用	粗暴行為	刃物等所持	金品不正要求	金品持ち出し	深夜はいかい	怠学	不健全性的行為	不良交友	不健全娯楽	自転車2人乗・無灯火	危険な遊び	その他(迷惑行為)	※(その他の内訳) たむろ	飲食	化粧	居座り	合計
男子	23年度		42											36		26	11	5	0	10	104
	24年5～7月		8											6	2	9		2		7	25
女子	23年度		19											4		26	13	2	4	7	49
	24年5～7月		3													4		1		3	7

※ 主な場所(駅前・駅売店内・駅トイレ・コンビニ等)

・行為別での指導状況は、この3か月間も従来と同様に、喫煙と自転車がらみの違反行為が多く報告されています。その他、居座りや飲食マナーでの迷惑行為も報告されています。

(2) 学職別の指導状況

(単位:人)

男女別	年度別	小学生	中学生	高校生	大学生	各種学校	有職少年	無職少年	合計
男子	23年度	10	15	56			14	9	104
	24年5～7月	5	2	9			3	6	25
女子	23年度	2	7	40					49
	24年5～7月		1	5				1	7

・学職別では、高校生や有職無職の少年が目立ちます。小学生にも自転車マナーや路上での遊技等の指導がありました。

(3) 月別の指導状況

(単位:人)

区分		年別	5月	6月	7月
指導人数		23年度	4	17	21
		24年度	9	19	4
	男子	23年度	4	14	15
		24年度	7	14	4
	女子	23年度	0	3	6
		24年度	2	5	0

・7月は5・6月と比べても昨年と比べても、減っていますが、このまま継続できるか否かは予断できません。

(4) 相談活動の内容(4～7月)

(単位:件)

区分＼相談内容	①学業	②交友	③非行	④家庭	⑤健康	⑥いじめ	⑦その他	合計
電話相談	6	5				8	20	39
メール相談		1					10	11
面接相談	6					4		10

・相談活動での相談内容は、学業や交友関係いじめに関する相談が多くなっています。

(5) 相談活動の状況(4～7月)

(単位:※)

区分	年別	4月	5月	6月	7月	4～7月計
電話相談	23年度	0 (0)	3 (3)	3 (3)	6 (6)	12 (12)
	24年度	7 (4)	5 (3)	9 (9)	18 (9)	39 (25)
面接相談	23年度	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)
	24年度	3 (1)	0 (0)	1 (1)	6 (5)	10 (7)
メール相談	23年度	0 (0)	0 (0)	18 (4)	5 (2)	23 (6)
	24年度	1 (1)	0 (0)	8 (3)	2 (1)	11 (5)
相談合計	23年度	0 (0)	3 (3)	21 (7)	13 (10)	37 (20)
	24年度	11 (6)	5 (3)	18 (13)	26 (15)	60 (37)

※数値は相談の延べ件数で、( )内は相談人数を表す。

・相談活動は例年に比べ電話相談と面接相談で大幅に増えています。新学年を迎えた子どもや母親の相談に真摯に向き合い、その結果面接も増えています。